

# 有馬朗人元文相がESDについて強調

## アクティブ・ラーニング・ラーニングと方向性一致

アクティブ・ラーニングとESDの方向性は一致している。元文部大臣の有馬朗人氏（NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム理事長）は4月に都内で行われた「ESD（持続可能な開発のための教育）の未来を拓く」学校と企業・団体の新たな協働」と題するシンポジウム（主催・㈱プラスエム）において、基調講演を行った。教育界のキーワードであるアクティブ・ラーニングとESDは関連が深いことを強調し、注目を集めた。

### ㈱プラスエムの創立15年記念シンポジウムで

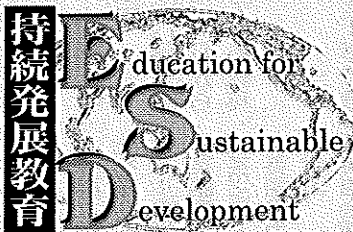
このシンポジウムは、創立15周年を記念して「学校と社会のシノイン 校・企業関係者らを集めた役割」を企業理念に掲げて開いたもの。有馬氏の基調講演は、



「環境教育の重要性とESDの可能性」と題するもので、最近の国内外のESDの動きなどを説明したあと、現行の学習指導要領との関連に言及した。その上で、「現在の次期の学習指導要領改訂の準備が進められている。そこでは、21世紀型スキルの育成、アクティブ・ラーニングが、現在の生きる力、活用力の養成に加えられるであろう。ESDはこのような方向性と一致している」と述べ、今後のESDの企業による支援の重要性を強調した有馬元文相

推進方策に期待を寄せた。

具体的な取り組みでは、①学校教育におけるESDの浸透（学校数の拡充など）②ユネスコスクール間の交流の促進③若者のESD活動への参加促進とネットワークの構築——などをあげるとともに、「特に強調したいことは、ESD関係の企業やNPOなどと学校との連携だ。そのために学校支援は欠かせない」「ESDの展開やリーダーとなる教員の養成には企業の協力が重要。そのため、教育と企業の双方をよく知るコーディネーターが必要である」と指摘した。



企業は担当事者が参加して、「持続可能な社会づくりの担い手育成に向けた企業・団体の役割」と題してパネル討論が行われた。

この中で、東京農工大大学院の朝岡幸彦教授は、「ポトムアップを目指した日本型ESDの可能性の追求を。幼児教育との連携なども必要だ」と述べた。東京都江東区立八名川小学校の手島利夫校長は、「日本のESDは、総合的な学習の時間をきちんと全国展開することでか

た。具体的には、三井物産㈱の斎藤氏は、「サス学アカデミーを実施している。『サス学』とは、持続可能（サステナブル）な未来を創る力を育むための学びで、さまざまなアカデミーの開催により、子どもたちの『未来を創る力』を応援している」と述べ、両社ともに、学校への支援活動の重要性を指摘した。

これに対し、電源開発㈱の藤木勇光氏は、「エコXエネ体験プロジェクトで、学校とは広い協働関係を形成している。今後ともより質の高い学びの場を提供していきたい」と述べた。

「企業側は貴重である」と、東京都大田区立大森第六中学校の税所要章前校長は、「子どもたちを社会の広がりの中で活動させるESDは、素晴らしい。ただ、学校には限界がある。どうしても支援が必要だ」と述べ、企業側の協力を求めた。

最後に、プラスエムの長岡代表取締役は、「今後、グローバル人材の育成を目指すため、ESDの根拠を織り込み、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた特別授業を実施していきたい」とまとめた。